



Title	第 6 号の発刊にあたって
Author(s)	西田, 知照
Citation	長崎大学留学生センター紀要. vol.6, p.i-ii; 1998
Issue Date	1998-06-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/5546">http://hdl.handle.net/10069/5546</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-22T08:57:07Z

## 第6号の発刊にあたって

紀要第6号の発刊に当たり、長崎大学留学生センターにとっての平成9年度を振り返ると、人事や施設の面で大きな変化があった。

平成9年4月に奥村訓代教授の高知大学への転出に伴い、後任として、東京大学から宮原 彬教授を迎えた。また、平成9年10月には環境科学部の発足に伴う福島邦夫教授の移籍があり、後任として奥村智紀講師を迎えることとなった。

施設の面では、留学生センター発足（平成8年5月）以来の念願であった講義棟（平屋建、250㎡）が横山哲夫学長、佐藤俊英学生部長、前学生部長の石原 忠教授のご尽力並びに事務局の多数の方々のご協力によって10月末に完成し、11月中旬から新講義棟での授業が始まった。また、幸いにも、文部省からの特別予算配分や学長からの研究予算配分を受けることができたお陰で、教育用機材も、各教室に配置され、コンピュータ室には留学生用のコンピュータも設置された。

講義棟は教室4室に加え、事務室、非常勤講師室、コンピュータ室など必要最小限のスペースしか確保されていない。従って、留学生用の談話室などは設けられていない。しかし、ロビーに設けられた談話コーナーでは、講義の間の休憩時間には留学生と教官やティーチングアシスタントを交えた賑やかな談笑の姿が見られる。この光景を見ながら、留学センターがようやく本来の役割を果たせるようになってきたことを喜ぶと共に、施設が如何に重要であるかを再認識させられる。ここに改めて、講義棟建設にご尽力下さった方々に厚くお礼を申し上げたい

施設などのハード面での充実と共にソフト面でも幾つかの充実が計られた。まず、留学生センターとしての日本語版インターネット・ホームページの公開が実現した。英語版も間もなく完成の予定である。その他に留学生センター案内やチューターマニュアルが作成され、留学生センターとしての広報資料類も確実に充実されつつある。

留学生センターの重要な発刊物の一つであるこの紀要の体裁は、印刷物のA4版化の流れに沿って、平成8年度版はA4版とした。しかし、表組みのし易さや読み易さなどの理由から、再度A5版へ変更することになった。また、発行時期も従来の3月発行から6月発行へと変更された。これは3月発

行では、その年度内の活動記録をすべて同じ年度版に収録できないという理由からである。

この紀要第6号には、日本語教育関連の論文に加えて、「留学生の学習・研究環境としての大学図書館―留学生の大学図書館利用調査を通して―」という論文が掲載されている。この中には、留学生が大学施設に対して求めている共通事項が凝縮されているように思う。例えば、英語の案内表示が欲しいとか、コンピュータソフトは英語版が欲しいというような、一見単純で直ぐさま実現可能と思われる要望も多い。留学生センターにおいても、コンピュータ類には英語版のソフトが必要なのだと大いに反省させられる。

一方では、留学生にとっての暗いニュースもあった。わが国で北海道拓殖銀行の破産や山一証券の営業停止など一連の金融不祥事と不景気が続く中、アジアでも金融危機が起き、アジア各国の通貨が大幅に下落した。その結果、アジア地区からの私費留学生の多くが経済的に大きな打撃を受ける事態となった。文部省による一時金の支給などの救済策はあったが、根本的な対策にはなり得ない。個々人の支援には限界がある。日本の景気を回復させることこそが最も確実な対策と思われる。一日も早い景気の回復を祈りたい

平成10年6月

留学生センター長 西田 知照